

INFORMATION AND KNOWLEDGE NEWS

情報知識学会ニューズレター
1996.8.1
39

情報知識学会事務局 発行〒110 東京都台東区台東1-5-1(凸版印刷(株)内) TEL03(3835)5692 FAX03(3837)0368 ISSN0915 1133

目 次

巻頭言: 日本語文の意味について	1
情報流通のための情報メディアの識別化	6
インターネットによって利用可能な哲学関係の情報源について	8
電子雑誌と電子雑誌リスト	13
お知らせ: 脳と用語シンポジウム	15
専門用語研究会との研究交流・連携について	16

【巻頭言】

日本語文の意味について

(財) 地震予知総合研究振興会 地震調査研究センター 芦崎 達雄

1. はじめに

日本科学技術情報センターで10年余り機械翻訳システムの開発・改良に関係してきましたが、この7月に(財)地震予知総合研究振興会の地震調査研究センターに出向しました。以前も情報知識学会 News Letter No.2(1989)に「機械翻訳の現場から」というテーマについて述べましたが、今回も同様に、機械翻訳における問題点について述べます。

2. 日本語形態素解析

日英機械翻訳システムは、日本語の入力文を形態素解析という手法で単語分割・品詞推定を行います。この形態素解析には、色々な手法が提案されてきています。例えば、品詞の並びによって単語を選択していく方法、辞書登録語によって単語を決定していく方法、単語の選択に経験的な知識(優先度)を与えて決定していく方法などがあります。

入力文で使われる言葉は無限であり、すべての単語を辞書に登録することは不可能です。また科学技術分野では、複雑な計算式や特殊な文字列などが使われます。このような文字列を含んだ文章を取り扱うには、辞書に登録されていない単語や、特殊な文字などを処理する機能が重要となってきます。なお、辞書に登録されている単語でも同一の表記でありながら、異なった使い方がされる単語や、複数の表記が用いられる単語があります。

J I C S T のシステムでは、辞書登録語を優先的に採用し、その単語の前方及び後続する単語の接続条件を調べて、単語分割を決定していく辞書駆動型方式を採用しました。なお、J I C S T システムのベースとなるMuプロジェクトシステムでは、複数解を結果として得られる機能を持っていました。しかし、形態素解析の結果を検討した結果、次候補となる単語分割が結果として採用される可能性はほとんどなく、その場合には、文章中の表現があいまいな使い方をしている例が多かったです。そこで、J I C S T では次候補となる語分割のスタック中の保有はせず、速度に重点をおいて、単一解を得る方法としました。

形態素解析処理としては、辞書駆動型で語分割を進めながら、特別な文字・式に対してはその都度、必要に応じて別処理を行う仕組みとしました。また単語分割を行った後で、単語の分割を変更する機能を設けて、解析文法に引き渡すためのインタフェースを統一し、文法適用の負荷を軽減しました。

3. 単語分割

単語分割の手法として辞書駆動型を採用したことにより、システムの辞書に対する依存度は非常に高くなりました。この辞書をいかに速く、効率良くアクセスするかは、全体の速度に大いに影響します。そこで、本システムでは、辞書アクセスについて、次の点を考慮しました。

辞書引きについては、入力文から字種（漢字、ひらがな、カタカナ、数字、アルファベット、記号）の切れ目で辞書引きできる単語は、予め一括して辞書引きします。そして、単語分割の処理中での辞書引きは極力行わないようにしました。

次に文字列マッチングの高速化について、求める単語の情報をいかに速く見つけることが重要な点です。形態素解析用辞書を作成するときに、辞書の見出し語の先頭一文字について見出し語検索用インデックスを同時に作成します。このインデックスは、辞書に登録されている見出し語の先頭一文字で表された全ての文字で構成されるとともに、その文字で始まる見出し語は、形態素解析用辞書では一つのまとまりとしてブロック化されるように作成しています。辞書をこのように作成しておく、形態素解析用辞書へのダイレクトアクセスや必要最小限の文字列マッチングについて有効です。さらに絞り込みのためのマッチングの回数を減らす手段として、形態素解析用辞書で見出し語の先頭二文字が共通の見出し語については、二文字の共通部を作成し、共通部で第一段階のマッチングを行うようにしました。

4. 語分割に悪影響を及ぼす単語

J I C S T のシステムでは、単一解を採用したために以下に示す名詞の単語が、他の品詞の単語分割に悪影響を及ぼすことが分かりました。例えば、「石油と石炭」の場合、「石油」＋「と石」＋「炭」という名詞連続に単語分割されてしまいます。このためJ I C S T の機械翻訳辞書には「と石」という単語は、登録しないようにしています。もし「と石」を使用したいときには、「砥石」または「ト石」を使用します。

なおJ I C S T では、動植物名については、カタカナで表記するようになっていますが、著者の書かれた抄録文については、必ずしもそのようになっていないので、このような現象が起こっています。またJ I C S T では、J I S の第2水準までカバーしていないので、格助詞を含む単語について悪影響を及ぼす単語があります。

以下に、誤解釈のパターンを示します。最初に辞書登録しない名詞、次にその語の異表記の登録語及び英訳語を示しています。なお思い付く用例も記述しました。ただし代替表現のない語は、カッコ内に読みを記述してます。

＊ 格助詞＋○

がく ガク、萼	calyx	～がく／れ／る
がす ガス	gas	～がす／で／に
がた 型	type	～がた／く／さん
のこ 鋸	saw	～／のこ／と
のど 喉	throat	～／のど／の／様に
のみ ノミ、蚤	flea	～／のみ／られた

＊並列助詞＋名詞

と石 砥石	grindstone	石油／と石／炭
と殺 屠殺	slaughter	～／と殺／人
と場 屠場	slaughter house	場内／と場／外
と畜 屠畜	slaughter	～／と畜／産業
とつ 凸	convex	
と粒 砥粒	abrasive grain	～／と粒／子／が

＊副助詞＋○

はい 肺	lung	～／はい／ない
はぎ 萩	Lespedeza	～／はぎ／論
はく 箔	foil	～／はく／れる
はけ 刷毛	brush	～／はけ／す
は種 播種	seeding	～／は種／類
は持 把持	retention	～／は持／つ
は水 破水	edge waste	～／は水／溶液
はな 鼻	nose	～／はな／い

＊ 接続助詞＋○

てこ 梃子	lever	～し／てこ／の
-------	-------	---------

＊終助詞

か カ、蚊	mosquito	～する／か
-------	----------	-------

＊名詞＋格助詞

歯が 歯牙	tooth	歯が／欠ける
中心か 中心穿	fovea centralis	～／中心か／ら／

＊動詞＋終助詞

いるか イルカ	dolphin	～し／て／いるか／どうか
---------	---------	--------------

*名詞

いか イカ	squid	いか／に／示す
能 (ノウ)	ability	～電話機／能
み 身	body	
レス (レス) loess		ペーパー／レス

*名詞+名詞

面材(メンザイ)	face bar	球／面材／料
用材(ヨウザイ)	for material	自動車／用材／料

*動詞+〇

しま 島	island	～しま／せん
------	--------	--------

*動詞

なす ナス	eggplant	～と／なす
-------	----------	-------

*接尾語+〇

つか 柄	mound	2／つか／ら／なる
つの 角	horn	3／つの／方法

*助数詞+〇

条は 条播	stripe seeding	9／条は／
年毎(ネンゴト)	per year	～10／年毎
日当り(ヒアタリ)	sunlight	1／日当り
万人(マンニン)	ten thousand	10／万人

*助動詞+〇

たこ タコ	octopus	～し／たこ／の／
たら タラ	codfish	～し／たら／
そう 槽	tank	～し／そう／である

*助動詞

ます 升	measure	ていねいの助動詞の「ます」との解消
------	---------	-------------------

*副詞

また 股	hip	文頭で使う副詞の「また」との解消
------	-----	------------------

5. さいごに

日本語を分析してみて、複数の意味に解釈がとれるものがあります。例えば「手を入れる」という時、目的語が文章の場合、英語は"rewrite"になりますし、ポケットであれば"put into"

になります。このような微妙な日本語の差は、機械翻訳では解決することが難しいです。

「東京へ行った」と「論文の翻訳を行った」は構造は同じであるので訳し分けをするためには、場所を表す時には「go to Tokyo」、動作を表すときには「論文を翻訳する」という構文にして「translate the paper」という訳語を出すようにしています。

「翻訳後処理」では、「後」が接頭語でも接尾語でもあるため、「ホンヤクゴシヨリ」「ホンヤクアトシヨリ」の両方の解釈が成り立ちます。

あと日本語の造語能力で動詞連続があります。「思い付く」「追い付く」「結び付く」のように、和語動詞が連続して一語の動詞として意味をなすものについては、逆引き辞典を参照して辞書を作っています。もしそのようなことをしめませんと、一文中に二語動詞が使用してある文並列の構造をなしてしまいます。文並列は「装置を開発設計した」の様に、抄録文ではよく使われている表現なので誤りではありませんので、この対応もなかなか大変です。

まだ解決していない単語連続の中では、形容詞の語幹+過ぎる、例えば「軽過ぎる」、「長過ぎる」などの場合は形容詞の語幹としてだけでは処理できないので、一語として辞書に登録しなければならないことがあります。

なお機械翻訳を利用したい文がありましたなら、短文にして、ひらがな文字列の連続使用は避けて、漢字・カタカナ等を使用すれば、誤解釈が少なくなると思います。

人文学へのコンピュータ応用の先端誌

Literary and Linguistic Computing

from..... Oxford University Press

コンピュータはすでに人文諸学でも必須のツールとなっています。Association for Literary and Linguistic Computing の公式機関誌Literary and Linguistic Computing は文学・言語学へのコンピュータ応用のトップ誌としてこの領域を牽引してきました。電子テキスト、テキストエンコーディング、ソフトおよびハードからテキスト分析・意味論・統語論に至るあらゆる領域の最新の研究成果が論じられるばかりでなく、学会レポート、書評、ノート等学会機関誌らしい多彩な情報が掲載されます。

◇電子オーダー： jnlorders@oup.co.uk

..... 日本支社にファクシミリでご注文頂くこともできます。

下記ご記入の上、このまま

FAX： 03-5995-3415 (Oxford University Press) までお送りください。

Literary and Linguistic Computing (個人購読価格：1年\$65・2年\$130)

購読希望 ・ サンプル希望 (○でお示しください)

ご氏名：_____

所属：_____

FAX：_____

情報流通のための情報メディアの識別化

愛知淑徳大学文学部 菅野 育子
(E-mail: CXQ05571@niftyserve.or.jp)

1. 情報メディアの識別

情報は情報メディアを媒体として流れている。その情報メディアを介して情報が効果的に流通するための方策として、情報メディアの識別化が重要である。ここでの情報は、情報の送り手と受け手が人間であり、情報メディアは図書や雑誌論文などの人間による「著作」を意味する。また識別とは情報流通を効果的に行なうための方策であり、その要素として番号や書誌情報が利用されている。

2. 識別番号

人間による創作物は多種多様であるが、まずは図書や雑誌を考えると、それらに付与されている識別番号としてISBN (International Standard Book Number : 国際標準図書番号) やISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次物番号) がよく知られている。この他にもテクニカル・レポートの識別番号であるISRN, 楽譜のためのISMN, 雑誌論文のためのU.S.SICI (現在は米国規格であるが、国際規格化の準備が進んでいる), などがある。また音楽の曲や詩, 映画やビデオ作品にも識別番号を付与することが検討されつつある。

これらの著作物そのものは、出版や配給による「物流」を考えればバーコードで識別すれば十分であろう。しかし「情報流通」という観点からは、著作物が絶版になったり放映が終了し、「物流」が途絶えたとしても、その著作物が他の著作物に影響を与えた（ある著作物から他の著作物へと情報が流れた）という「情報の流れ」について記録しておく必要があり、そのために著作物を識別することは重要である。その情報がだれによって生産され、どのように他の情報の生産のために利用されたのかを記録し、そこから次の利用が促進されるために、その情報源を識別しやすくするための識別番号は重要な要素の一つである。

3. 電子媒体と識別要素

情報流通における諸問題の1つとして文献の電子化がある。文献が印刷媒体から電子媒体へと変化する際に、その識別要素はどのように変化し、それによって情報流通はどのように変化するのかを検討する必要がある。文献の識別要素としての書誌情報の記述（書誌記述）に関する国際規格の中に、電子媒体を対象とした内容が追加された。そこでその内容を検討することから、電子媒体の情報メディアの識別化の必要性を考えることにする。

まず書誌記述の標準化としては、図書館目録や引用のための規則がある。特に引用（参照）については、国内でもSISIT 02-1984（参照文献の書き方）が作成されて久しい。このSIST-02が参考とした国際規格がISO 690(参照文献の書き方—内容、書式及び構成) [1] である。このISO 690は印刷媒体のための書誌記述であったため、電子媒体への対応のための改訂案が検討されることとなった。その結果、電子媒体のみを対象とした規格としてISO 690-2(参考文献の書き方—電子文献) [2] が1996年に制定され、現在仏訳の作業に入っており規格書の発行待ちの状態である。この規格は、電子媒体を次のように分類している（表1）。

表 1 : ISO 690-2による電子媒体の分類

全体	部分
電子図書	章
データベース	ファイル
コンピュータプログラム	部分
電子雑誌	記事
電子掲示板	メッセージ
電子会議録	メッセージ
電子メール	メッセージ

表中に示した記述方法を具体的に示したのが図1である。

PRICE-WILKIN, John. Using the World-Wide Web to Deliver Complex Electronic Documents: Implications for Libraries. The Public-Access Computer Systems Review[online]. 1994, vol.5, no.3[cite 1994-07-28], pp.5-21. Available from Internet:<URL:gopher://info.lib.uh.edu:70/00/articles/e-journals/uhlibrary/pacsreview/v5/n3/pricewil.5n3>. ISSN 1048-6542
--

図1 電子雑誌記事の記述例

事例には従来の参考文献の書き方と同様に、論文の著者、論文のタイトル、論文収録誌名、巻号、該当ページがある。これらに加えて電子媒体としての識別要素として引用日時(Date of Citation)と情報源の入手先(Availability and Access)が示されている。事例にある[cite.....]は、電子媒体特有の頻繁な改訂によって利用した日時によってその内容が変化していることを考慮するために、利用した日時を識別要素として加えたものである。また情報源の入手先には、URL(Uniform Resources Locator)がそのまま採用されている。このURLは、Internet Engineering Task Force(IETF)というインターネット上の基準を電子会議で審議しているグループである[3]。IETFが提案したURLは実際に利用されており、インターネット上の情報資源に実際にアクセスするための標識のような役割をもっている。しかしこのURLの項目には、論文の著者名の略記(pricewil)、収録誌名と巻号の略記(pacsreview/v5/n3)のみが識別要素として利用されていることがわかる。これは、記事の収録誌と著者名のみが情報源の入手先に必要な要素として示されていることになる。そのためURLは図書館での図書の位置を示す請求記号のような役割しかなく、情報メディアの識別化には不十分である。

電子媒体による情報流通は、情報の入手可能性が識別性よりも重要視される。そのためネットワーク上での情報資源の利用は、物理的な資源の流通と同様に扱われがちである。しかし、従来の雑誌記事の記述方法では、収録誌は「親書誌」であり、雑誌記事は「子書誌」という位置付けになっており、この書誌情報における上下関係を重視する「書誌階層」の概念を表現するためには、記事とその収録誌の両方からなる要素が必要である。そのためISO 690-2では、書誌情報とURLの組み合わせで、電子媒体の参考文献の書き方を構成しているわけである。

ある情報メディアを通して情報が他の情報メディアへと流れたという記録を示すために、電子媒体においても参考文献の書き方が必要であり、そのことは情報流通のために不可欠な情報メディアの識別化を計ることである。

引用文献

- (1) ISO 690(Information and Documentation - Bibliographic References - Contents, Form and Structure 参考文献の書き方—内容、書式及び構成)
- (2) ISO 690-2(Information and Documentation - Bibliographic References - Part2: Electronic Documents or Parts Thereof 参考文献の書き方—電子文献)
- (3) ISO/TC46 第26回総会出席報告 カナダ・オタワ, 1996年5月7日－12日

.....

インターネットによって利用可能な哲学関係の情報源について

静岡大学文学部 浜渦 辰二
(E-mail: jsshama@hss.shizuoka.ac.jp)

哲学の世界は、最新の情報が瞬時のうちに世界中を飛び交うというインターネットの世界からはほど遠いように思われるかも知れない。しかし、そこにもインターネットの波はすでに着実に普及し、インターネットは哲学研究のこれまでのあり方を根本的に変えて行くのではないかという認識が広がりつつある。そこで、ここでは、現在（1996年7月初旬）の時点で、実際WWW上にどのような哲学関係の情報源が構築・公開されているかを紹介し、哲学研究におけるインターネットの果たす役割について考察する手掛かりを提供したい。

1. 一般的なインフォメーションを得るためのサイト

Electronic Texts in Philosophy

【<http://pollux.zedat.fu-berlin.de/~aporia/ephtexts.html>】

哲学における電子テキストについての紹介文で、アメリカのカーネギー・メロン大学の Leslie Burkholder 氏によって作成され、ケンタッキー大学の Eric Palmer 氏によって改訂された、1994 年の 3 月改訂の第 3 版が、ドイツ・ベルリン大学のサーバーに保存されている。いささか情報が古くなっているが、世界の各地で既に作成された電子テキスト、および現在(当時)進行している電子テキスト作成のプロジェクトが、哲学者ごとに分類されて紹介されている。

Philosophy Services

【http://www.phil.ruu.nl/philosophy/_services.html】

オランダのユトレヒト大学の Arno Wouters 氏によって作成され、1995 年 2 月に Version 4.2 が公開された「哲学者にとってのインターネット・サービス」で、これは、インターネットに慣れていない、またはその利用に懐疑的な哲学者に有用なリソースを紹介するとともに、インターネット上の情報にどうやってアクセスするのかについてのヒントを提供しようとする紹介文である。哲学に関心をもつインターネット利用初心者にはピッタリのページで、彼自身の作成した、哲学サイトへのリンク集もある。ロードするのに時間のかかる画像データなどの余計な飾りが一切ないことが、利用しやすい。

Computing Resources for Philosophy: An Introduction

【<http://sable.ox.ac.uk/departments/humanities/philit.html>】

イギリスのオックスフォード大学の人文科学コンピュータ・センター (CHC: Centre for Humanities Computing) による、哲学においてコンピュータを利用した資源についての紹介。オックスフォード大学におけるコンピュータ・サービス (OUCS)、同サービスにおける人文科学コンピュータ・プロジェクト (特に、オックスフォード・テキスト・アーカイヴ)、インターネット上の資源、電子テキストとテキスト解析、などについての紹介がある。1995 年 8 月に作成されたもので、少し古くなりつつあるが、インターネット上の哲学関係の資源の利用についての基本的な知識を得るには、十分役に立つ。

2. 哲学関係の情報源への一般的な入口となるリンク集

American Philosophical Association

【<http://www.oxy.edu/apa/apa.html>】

合衆国における哲学者達の主要な専門組織であるアメリカ哲学会 (APA) のホームページ。案内板、会員紹介、学会案内と論文募集の案内、補助金と奨学金の案内の他に、哲学的内容をもったウェブ・サイト、各大学の学科・研究所・センター、図書館・コレクション・参考資料、文献情報、出版社などへのリンクも豊富に張られている。

Philosophie-Seiten

【<http://ix.urz.uni-heidelberg.de/~dkoehler/philo/ihvz.htm>】

ドイツ・ハイデルベルク大学の Dieter Koehler 氏によるサイト。すでに世界中に数ある哲学関連のホームページのなかで、ドイツで作られ、ドイツを中心としたヨーロッパの哲学関連情

報を提供するものとしては、最も充実している。膨大なリンクが、研究(オフラインおよびオンラインの文献案内、討論・フォーラム、哲学者達のホームページ等)、組織(学部、研究所、プロジェクト、学会)、その他に分類されている。

Voice of the Shuttle: Philosophy Page

【<http://humanitas.ucsb.edu/shuttle/phil.html>】

アメリカ・カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校の Alan Liu 氏によって作成されている哲学関係のサイトの膨大なリスト集。一般的な哲学リソース、哲学者と著作、ジャーナル、リストサーバとニュースグループ、学会と論文募集、学科とプログラム、などに分類されている。充実しており、一見の価値あり。

The World-Wide Web Virtual Library: Philosophy

【<http://www.bris.ac.uk/Depts/Philosophy/VL/>】

イギリス・ブリストル大学哲学科に置かれ、Daniel Brickley 氏によって作られているヴァーチャル図書館で、哲学関係のさまざまなインターネット・リソースを提供しようとしている。哲学のリソース・ガイド哲学ジャーナル、国別の哲学科、討論グループ、電子テキスト、メーリング・リスト、哲学者のためのリアル・タイム会話、インターネット上の哲学サイト、といったグループ分けがされている。また、関連するヴァーチャル図書館として、人文学、言語学、認知科学、美術史、社会学、ドイツ哲学といったコーナーへのリンクもある。

Philosophy in Cyberspace - Home Page

【<http://www.monash.edu.au/cc/staff/phi/dey/WWW/phil.html>】

オーストラリア・Monash 大学の Dey Alexander 氏による哲学関連のソースガイド。メーリングリスト、ジャーナル、電子テキスト、ビブリオグラフィ、プレプリント、出版社、哲学関係の組織・学会、大学の哲学科、等にグループ分けされている。

Philosophy on the Web

【<http://www.phil.ruu.nl/philosophy-sites.html>】

オランダの Arna Wouters 氏(前出)によるリンク集。さまざまなサイトが、ディレクトリ(一般的なリソース集のページ)、文献案内、学科、ジャーナル、電子テキスト、Gopher サーバー、雑誌と学会、プレプリント、プロジェクト、出版社、ソフトウェアに分類されている。

Guide To Philosophy

【<http://www-und.ida.liu.se/~y92bjoch/>】

スウェーデンの Bjorn Christensson 氏によるサイト。19 人の哲学者の肖像と簡単な紹介と関連するページへのリンクあり。また、249 のウェブ・リソースを、カテゴリーによるトップ5、マガジンとジャーナル、電子テキスト、リンク集、機関などに分類している。

Index Page - McGill Philosophy

【<http://www.philo.mcgill.ca/>】

カナダ・McGill 大学の Anrew Burday 氏が作成している哲学科のサイト。同大学哲学科に

ついでに情報を提供するとともに、哲学者達がインターネット上の情報を使いやすくすることを目指している。様々なレベルの利用者を顧慮して、いくつかの短い説明文のついたリンクと、沢山の説明なしで名前だけのリンクを張っている。

Philosophy

【<http://www.physics.wisc.edu/~shalizi/hyper-weird/philosophy.html>】

アメリカの Mitchell Porter 氏による "High-Weirdness by E-Mail" をもとに、Cosma Rohilla Shalizi 氏が作成している、ftp サイト、gopher サイト、ハイパーテキストのページの膨大なリストの哲学部門。古代・中世哲学、近世・現代哲学が更に個々の哲学者に分けられたもの、人工知能、認知科学、心と脳、宗教と霊性、といった主題別に分けられたもの、などの包括的なリストがリンクされている。

Research Institute for the Humanities - Philosophy

【<http://www.arts.cuhk.hk/Philo.html>】

香港中文大学・文学院・人文学科研究所の哲学部門のホームページ。中国哲学関係を中心にさまざまなリンクが、哲学関係のサイト、各大学哲学科のページ、主題別、論理学、哲学者、などに分類されている。アジアにある、おそらく一番大きな哲学関係リンク集であろう。

哲学情報センター

【<http://www.sal.tohoku.ac.jp/phil/PHILOSOPHY/index-j.html>】

東北大学文学部哲学・倫理学合同研究室が提供しているリンク集。学会・研究会等、研究者情報、雑誌・書籍・データベース、哲学関係-便利なサイトに分類されている。

哲・倫・宗

【<http://www.asahi-net.or.jp/~IS8K-NGSK/>】

筑波大学大学院哲学・思想研究科 2 年の永崎研宣氏が、「ホームページ運用の経験を積むことを兼ね、ASAHI ネットのホームページ作成サービスを利用して個人的に運営している」、哲学・倫理学・宗教学関係の国内リンク集。学会等、研究機関等、リンク集、資料集、テキスト等、雑誌等、などに分類されている。

3. 哲学文献の電子テキストへの入口となっているサイト

Oxford Text Archive Home Page

【<http://users.ox.ac.uk/~archive/ota.html>】

イギリス・オックスフォード大学のテキスト・アーカイブのホームページ。このアーカイブに保存されているのは、ギリシア語・ラテン語・英語・その他の言語の主要な作家・著者の作品の電子バージョンである。1500 を越えるテキストが、プレイン・テキスト、SGML、HTML という異なる形式で保存されているが、すべてのテキストがインターネット・ユーザーにアクセス可能なのではなく、オックスフォードのユーザーに制限されているものもある。

TEI(Text Encoding Initiative) と SGML(Standard Generalized Mark Up Language) についても詳しい説明がある。

University of Chicago Electronic Text Services

【<http://www.lib.uchicago.edu/LibInfo/ets/>】

アメリカ・シカゴ大学にある電子テキスト・サービスのサイト。フル・テキストのデータベースが、英語・フランス語・ドイツ語・ギリシア語・ヘブライ語・イタリア語・ラテン語と、使用言語によって分類されている。同大学に保存されているテキストと、他で保存されているテキストへのリンクとがある。ウィトゲンシュタインの英訳著作集は前者であるが、著作権の問題から、利用は同大学のメンバーに制限されている。

The University of Virginia Electronic Text Library

【<http://etext.lib.virginia.edu/uvaonline.html>】

アメリカ・ヴァージニア大学の電子テキスト図書館。同大学のユーザーにはすべてのテキストとイメージが入手できるが、一般のインターネット・ユーザーには制限されているものもある。すべてのテキストは、SGML でマーク・アップされているが、ユーザーが利用するときには自動的に HTML に変換される。英語・フランス語・ドイツ語・日本語・ラテン語と、使用言語によって分類されている。ウィトゲンシュタインのドイツ語のテキストが三つ入っているが、利用制限されている。因みに、日本語のテキストとしては、同大学図書館電子テキスト・センターとピッツバーグ大学東アジア図書館の協力による Japanese Text Initiative が唯一、『小倉百人一首』を英日対訳テキストとして公開している。

Philosophische Seiten: Personen

【<http://ix.urz.uni-heidelberg.de/~dkoehler/philo/personen.htm>】

ドイツのハイデルベルク大学の Dieter Koeler 氏(前出)が作成しているサイトで、世界中に散らばっている電子テキストのサーバーへのリンクを張ったリンク集。英語のテキストだけでなく、ドイツ語、フランス語、イタリア語のテキストもあるのが嬉しい。哲学者別に分類されているほか、源泉になっているサーバーへのリンクもまとめられており、大変充実しているので、ブックマークしておく価値がある。

ATHENA: BOOKS, LITERATURE, ARTS, SCIENCE, MINERALOGY

【<http://un2sg1.unige.ch/www/athena/html/athome.html>】

スイスのジュネーブ大学の Pierre Perroud 氏によるサイトで、電子テキストあるいはそれを保存したサイトへのリンクを収集した膨大なリンク集。2500 件以上の電子テキストへのリンク(著者名のアルファベットで分類されている)、スイス人の書いたもの、フランス語で書かれたもの、美術と科学、科学、鉱物といった分類がなされ、哲学・科学・古典・文学・歴史・経済等という広い分野にわたって、しかも多言語での電子テキストへのリンクを収録している。スイス人の書いたもののなかには、ルソーのフランス語のハイパーテキストもある。

ここでは、私が蓄積しているブックマークのなかから、できるだけ哲学プロパーで、しかも一般的に役立つものを厳選して紹介した。これ以外にも、電子ジャーナルや学会・組織や各大

学哲学科のサイトなどもあるが、それぞれ以上に挙げたものからリンクが張られているので、それを辿って頂きたい。また、私が作成中の「はまうず・ホームページ」

【<http://jcmac2.hss.shizuoka.ac.jp/shakai/ningen/hamauzu/hamauzu.html>】

からも若干リンクを張っているなので、それも参照されたい。以上の材料をもとに、インターネットが哲学研究にいかに関立つかについては、稿を改めて論じられねばならないだろう。

電子雑誌と電子雑誌リスト

愛知淑徳大学文学部 久野 高志

(E-mail: MXF02511@niftyserve.or.jp)

コンピュータ・ネットワーク（以後、ネットワーク）上での情報公開は、紙というメディアへの印刷形態を主な対象としてきた出版技術のネットワーク上への進出であると考えることができる。したがって、WWWのホームページ等は（電子）出版物の一種であるといえる。

しかし公開されている情報を内容面からみた場合、伝統的出版においては出版するのに値しないと判断されたであろうものも数多く、ネットワーク上での情報公開のすべてが出版物として考えられるかどうかは判断が難しい。これはネットワーク上での情報公開（情報発信）が、安価でかつ容易に行えるようになった結果でもある。

そうした中、ネットワーク上にも雑誌（電子雑誌；electronic journal, electroniczine, e-zine, web zine, online journal, ...）が数多く存在している。こうした状況を受け、電子雑誌の探索のために、電子雑誌リストが既にネットワーク上に数多く存在している。

代表的な電子雑誌リストを挙げてみよう。

Directory of Electronic Journals, Newsletters and Academic Lists

【gopher://arl.cni.org/11/scomm/edir】

雑誌タイトル(アルファベット順) リスト。検索機能あり。

記載事項：雑誌タイトル，雑誌説明，購読方法など。

Scholarly Journals Distributed Via the World-Wide Web

【<http://info.lib.uh.edu/wj/webjour.html>】

雑誌タイトル(アルファベット順) リスト。

記載事項：雑誌タイトル。

Electronic magazines

【<http://www.abc.hu/unix/magazines.html>】

雑誌タイトル(アルファベット順) リスト。

記載事項：雑誌タイトル，雑誌説明。

また、リスト検索機能を持ったサーチエンジンの特定カテゴリーを参照することにより電子雑誌リストが得られる（もちろんサーチエンジンではキーワード検索で探索することも可能）。つぎに、サーチエンジンを例示する。

Yahoo

【<http://www.yahoo.com/>】

ex. カテゴリー (Reference:Libraries:Information Science:Journals) など。

雑誌タイトル(アルファベット順) リスト。検索機能あり。

記載事項：雑誌タイトル，雑誌説明。

The WWW Virtual Library

【<http://www.w3.org/hypertext/DataSources/bySubject/Overview.html>】

カテゴリー (Electronic Journals) から細分。

カテゴリー別，雑誌タイトル(アルファベット順) リスト。検索機能あり。

記載事項：雑誌タイトル，雑誌説明。

そのほか、「電子雑誌リストのリスト」まで存在する。

Ejournal SiteGuide: a MetaSource

【<http://wcewannie.library.ubc.ca/ejour/>】

サイト名 (アルファベット順) リストおよび項目別リスト。

(General, Academic, Specific Disciplines, Zines, Commercial, Other)

記載事項：サイト名。

電子雑誌は、継続発行されるという点においては伝統的な雑誌と共通であり、他の公開情報とは区別しやすい。しかし、内容的には“雑誌”とは名ばかりで内容あるいは継続性がないものから制作編集に関する組織が確立していて国際標準逐次刊行物番号 (ISSN) を持ちフォーマルな雑誌として認知されているもの、あるいは一般的な雑誌 (magazine) から学術雑誌 (journal) まで千差万別である。提供形態は、最近はWWW上で発行されるものが多いがメーリングリスト (mailing list)，ネットワークニュース (network news)，gopher サーバ上など様々であり、有料のものや購読申込が必要なものも増えつつある。

こうした現状を考えると電子雑誌の大半は実用化へ向けての試験的段階にあるということがいえそうである。

.....

<お知らせ>

脳と用語シンポジウム

趣旨： 最近のニューロサイエンスの急速な進歩により脳の内部構造や知覚、学習その他の機能のメカニズムも明かになりつつある。一方情報基盤整備も世界中で大幅に高度化と広範な普及が進められている。したがって大量情報の国際的流通は現実のものとなり、さらにその勢いは増加の一途である。ところが情報の高度利用は思った程容易ではない。それは意味処理の問題が未解決であることに因る。そこで概念の記憶・処理装置である脳と、概念の表現媒体である用語との関係をそれぞれの分野の専門家が共通の問題を論ずる場を持つことはニューロサイエンスにとっても有用で興味ある結果または展開の緒が得られることが期待される。これが「脳と用語」シンポジウムの開催の狙いである。

主催：日本学術会議（学術文献情報研究連絡専門委員会）

情報処理学会（情報学基礎研究会）

専門用語研究会

情報知識学会

情報科学技術協会

言語処理学会

予定招待講演（交渉中を含む）

松本 元（電総研）：脳の生化学および情報処理研究

甘利俊一（東京大学）：脳の数理モデル

長尾 真（京都大学）：専門用語の構造化

予定講演（交渉中を含む）

藤原 譲（筑波大学）：用語間の意味関係の自己組織化

影浦 峯（学術情報センター）：専門用語の意味論

西尾章二郎（大阪大学）：オントロジと知識構造

その他学会誌、e-mail 等を通じて一般講演を募集する。

日時：平成8年12月12日（木）9：30－17：00

会場：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7丁目22番34号

地下鉄乃木坂一青山墓地側出口左隣

tel 03-3403-6291

fax 03-3403-6224

参加費：無料、ただし資料代：5000円（暫定案）

スケジュール

7月中 学術会議 申請、講演依頼

- 8月末 学会誌、e.mail：論文募集
10月初 論文申し込み締め切り、プログラム編成
11月 学会誌、e.mail：参加募集
11月中 論文提出締め切り
12月12日（木）シンポジウム
-

専門用語研究会との研究交流・連携について

情報知識学会副会長 藤原 譲

情報知識学会の活動は多岐に渡るがマルチメディアの時代になり用語の問題は以前の文字情報中心の時代より以上にその意義が明確になり、重要性の認識も増してきていることはよく知られている通りである。

一方専門用語研究会は各専門領域ごとに用語集の作成や用語の標準化をはじめとして学際的、国際的観点にたつて学術用語を対象とした科学および技術のための研究会であり、ISO/TC 37 や用語研究の国際機関である Infoterm などと連携した活動も行っている。

今回別項目で掲載される「脳と用語シンポジウム」は専門用語研究会の提案で情報知識学会や関係する学術会議、情報処理学会などと共同主催で開かれることになっているが、これを機会に研究の交流や活動の連携が話し合われている。それぞれ理事会でこの件は前向きに検討することになっているが会員の御意見や将来についての御提案をお願いする次第です。連絡は事務局までお願いします。

情報知識学会事務局

TEL 03-3835-5692

FAX 03-3837-0368

E-mail LED01013@niftyserve.or.jp

.....

■複写をされる方に

[R] <学協会著作権協議会委託>

日本国内における、当ニューズレターからの複写許諾は、学協会著作権協議会から得てください。

学協会著作権協議会

〒107 東京都港区赤坂 9-6-41

TEL: 03-3474-4621, FAX: 03-3403-1738

アメリカ合衆国における複写については、Copyright Clearance Center, Inc. から得てください。

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA. 01923, USA

TEL: 508-750-8400, FAX: 508-750-4744